**ハンドマイク街頭演説原稿例　「ＧＯＴＯ」の抜本見直しを**

二〇二〇年十一月二五日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策をうったえさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、新型コロナの感染拡大が止まりません。全国でも、埼玉でも過去最高の新規感染者数を記録しています。政府もＧＯＴＯキャンペーンの見直しを表明しましたが、あまりにも遅く、中途半端です。しかも、見直しの判断を知事に「丸投げ」するなど非常に無責任なものであり、今回の事態を招いた菅政権の責任は重大です。日本共産党は、国の責任で全国一律のＧＯＴＯキャンペーンをやめ、地域ごとの事業に見直すこと、持続化給付金の第二弾など直接支援を組み合わせ、宿泊業や観光業を守っていくことを強く求めていきます。

日本共産党は先日、新型コロナの「第三波」到来をうけ、国の緊急対応として、以下の三点を提案しました。第一に、感染が急増している地域での大規模で集中した面的検査、医療機関や高齢者施設等のいっせい・定期的な検査をおこなうことです。第二に、急増する陽性者を確実に把握・保護するために、感染追跡の専門家を急いで確保するともに、保健所の体制を国の責任で抜本的に強化することです。第三に、一刻も早く医療機関の減収を補てんし、自治体が軽症者らの宿泊療養施設を確保できるよう国が緊急の財政措置をおこなうことです。特に、いっせい・定期的な検査については、費用の二分の一負担が自治体の重い足かせとなり、二の足をふむところが少なくありません。全額国庫負担で検査体制を早急につくり、国が主導して医療機関と高齢者施設を守ることがいま緊急に求められています。日本共産党は、国や自治体が提案に沿った対応をとるよう全力をあげます。

みなさん、コロナ禍のなかでもなんとか持ちこたえていた中小企業から、「このままでは年を越せない」との声が相次いでいます。消費の落ち込みによる地域経済の疲弊もきわめて深刻です。日本共産党は、中小企業、フリーランス・自営業者の命綱となっている持続化給付金の継続、休業手当が支払われない労働者を支援する「休業支援給付金」の対象拡大、文化芸術活動を継続するための「支援金」の支給を強く求めていきます。路頭に迷う人を一人も出さない決意で引き続き全力をつくします。

　みなさん、菅首相による日本学術会議への人事介入について、このままあいまいにするわけにはいきません。この問題は、決して学者だけの問題ではありません。戦前、滝川事件など学者への弾圧をきっかけに政府の暴走にもの言えぬ社会がつくられ、あの悲惨な侵略戦争へとつきすすんでいったのです。この歴史を決して繰り返してはなりません。戦前の暗黒社会でも、国民主権と民主主義の実現をめざし、反戦平和を貫いてきた日本共産党を今度の総選挙で何としても大きくしてください。野党連合政権の実現で、強権政治を推し進める菅自公政権を倒し、新しい政治をごいっしょに実現していきましょう。

　最後に、日本共産党が発行する「しんぶん赤旗」の購読をお願いしまして、この場所をお借りしてのうったえを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）